

おきたま米づくり情報 No.2

JA 山形 おきたま
やまがた攻めの米づくり日本一運動
置賜地域実践本部

「初期生育の早期確保」に向け、「健苗育成」と「土づくり」で米づくりスタート！

◎ **播種** ～健苗を適期に植えられるよう計画的に作業をすすめましょう～

- 田植えの計画に合わせて播種日を決めましょう。苗の老化は、活着不良や初期生育が遅れる要因となります！
- 10a 当たりに必要な苗箱数は、稚苗で 25 箱、中苗で 30 箱が目安です。
- 移植適期は **5 月 15～20 日** です。5 月 25 日が晩限！

田植え日から逆算して
計画的に！

☆作業時期の目安【5 月 20 日田植えの場合】

苗の種類	乾籾重 (g/箱)	水漬け日	催芽日	播種日	育苗期間	田植え日
稚苗	150～180g	4 月 12 日	4 月 24 日	4 月 25 日	20～25 日	5 月 20 日
中苗	80～120g	4 月 2 日	4 月 14 日	4 月 15 日	30～35 日	

◎ **育苗初期の温度・水管理**

- ハウス内および苗床に温度計を設置し、両方の温度確認をこまめに行いましょう。

苗床も
温度を確認！

【低温対策】

- ・保温性の高い資材で温度を確保する。遮光性の高い資材は地温が上がらず、出芽に時間を要する場合がありますので注意が必要です。

【高温対策】 ～40℃を超すと 30 分でヤケることも！日中留守にする際は要注意！～

- ・晴天時は高温障害が発生しやすいので要注意！温度が上がる前に早めにハウスを開放する、遮光資材を使う等の対策を取りましょう。
- ・保温マットを使用する場合、気温が高い日は苗床の温度が急激に上昇するため、早めに換気、保温マットを除去する等の対策が必要です。

【育苗期間の温度管理】

	昼間	夜間	注意点
出芽時	30～32℃		○無加温出芽は出芽を揃えることがカギ。きめこまやかな管理を行う。
緑化期 (出芽後 2～3 日)	25℃	15℃	○外気温が 25℃以上の日は苗ヤケ要注意！早めにハウスを開ける。
緑化期以降	20～25℃	8℃以上	○低温時には保温に努める。 ○霜が予想される場合は早めにハウスを閉める。

- かん水は午前中に 1 回が基本です。夕方からのかん水は根張り不良となるため避けましょう。
- プール育苗では 1.5 葉期からハウスを開放し、入水します（床土の高さ）。2 葉期以降は常時湛水し、箱上 1cm 程度の水深とします。苗が伸びやすくなるため、ハウスの気温はやや低めに管理しましょう。

◎ 育苗期間中の病害対策

○出芽を揃え、温度管理やかん水を適切に行い、病害を発生させない環境づくりが大切です。
カビが発生したり、苗の生育異常がみられたりした場合には早めにご相談ください。

【育苗期間中に発生する病害と対策】

病原菌	主な症状	発生条件	発生抑制のポイント
フザリウム	白色～淡紅色のカビ	緑化期の 低温、湿度の 変動が大きい 時	○低温をさけ、適切な温度 を保つ ○過湿にしない
ピシウム	カビは見えない。 出芽後の芽、根の枯死、ムレ苗		
リゾプス	種子、芽の周辺に白いカビ、 根の褐変、葉の黄化	出芽時の 高温多湿	○33℃以上の高温、多湿に しない
苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	第2葉の葉身基部が黄白化、 枯死、坪枯れ	高温、多湿	○高温、多湿にしない ○発生した場合は苗を処分

◎ 土づくり肥料を積極投入

○天候不順な中、安定的に米の品質収穫量を確保するためには、「土づくり」は必須技術です。
特に、ケイ酸資材は①根の活力維持、②登熟能力の向上、③いもち病抵抗性向上の効果が期待できます。土壌 pH の改善にも有効です。積極的に施用しましょう。

【施用のめやす】ケイカル 120 kg/10a

- 耕起後 5 日以上無降雨が続き、作土層が乾燥することにより、乾土効果（窒素栄養）を得ることが出来ます。さらに、稲わらの分解も促進されます。早めの耕起で乾土効果ゲット！
- 「作土層が浅くなっていませんか？」土壌からの養分の供給力増加や、登熟不良・品質低下軽減のために、**耕土深 15cm** を目標に耕起を行いましょう。トラクターの耕起スピード、踏圧にも注意しましょう！

◎ 品種に応じた基肥量の目安

○品種に応じた基肥量（窒素量）は、下表を目安に、良食味米の生産に努めましょう。

表 品種別の基肥量（窒素量）の目安

品種名	はえぬき	つや姫	雪若丸	コシヒカリ	ひとめぼれ	あきたこまち
窒素成分量 (kg/10a)	5～6	3～4	4～5	3～4	4～5	5～6

◎ 堆肥の過剰施用は食味にマイナス

○堆肥は、家畜の種類や原料により成分が異なるので、特徴を把握して施用しましょう。
つや姫、雪若丸で堆肥を施用した場合には、必ず基肥の減肥を実施しましょう。

STOP 農作業事故！

～声をかけあい 助け合い 農作業ゼロへ～

◎春作業はトラクター等の機械作業が多くなるので、作業前には、機械の点検、危険箇所のチェック等を行い、農作業事故ゼロを達成しましょう。